
私たちのギルドに依頼して！！

月牙天衝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちのギルドに依頼して!!!

【Nコード】

N1663BA

【作者名】

月牙天衝

【あらすじ】

こんにちは。

駄文が多いと思います。

感想・意見等してくれたら嬉しいです。

プロローグ

ある街のある通りの一角に人だかりができていた。人だかりの中心には少年がいた。

少年は16、7歳位に見える。髪は黒色で光に当たってもその黒色は変色しない。前髪は眼に軽くなる位、横髪は耳にほとんどかかっていないがそこまで長くは無い、後ろ髪は肩にかかりそうでかからない位にまでのばされてる。全体的にツンツンしており、若干前髪が左に傾いている。目つきは細く鋭い。まるで獲物を狙う鷹のようだ。その他の顔のパーツは全部整っている形をしている。顔立ちは整ってはいるしアニメに出てきそうな髪型をしているので中の上々位である。身長は170cm位でスラッと細身だが筋肉はそこそこついている。

そんな少年は今パフォーマンスを披露している。路上パフォーマンズだ。少年のパフォーマンスには3つある。1つ目は刀。刀を又んちやくみたく振るったり、刀が曲がっているように見える踊りをしてみたり、刀を上空へ投げ腕を刀の落下点の所にだす。普通だったら回転している刀に腕が切り落とされるのだが、少年の刀は回転しながらもまるで生きているかのように腕を避ける。結果、少年の腕は切り落とされずにすんだ。刀は地面に刺さると同時に観客達からは拍手がおきる。2つ目は銃。空き缶に10連発地面に落とさずに当てたり、10段くらいある山積みになった一斗缶を50m離れた所で弾丸一発で崩したり、最後に拳銃6丁を両手で素早く1丁ずつお手玉のように入れ替えて的に撃つ。6丁の弾丸をわずか10秒で使い切り、的には全部と真ん中の黒丸。観客からの拍手はさらに増した。3つ目は翼。なんと少年の肩甲骨から翼が生えたのだ。純白で汚れが一切見られない翼。少年は翼を広げ、浮く。翼を振ると純白な羽毛が道に落ちてゆく。その姿はとても美しく、観客は幸せそうな顔になったり唖然としたまま少年に釘づけになったりしている。

少年は浮いたままお辞儀をする。
「ありがとうございます！！」

~~~~~

パフォーマンスが終わって数十分後。終わった直後は少年は観客からの質問に答えたり、サインを書いたり、ファンレター貰ったりと忙しかった。だが、今、興奮も冷めて観客が解散し少年は1人だ。片づけを手早く済ませ、今日の稼ぎを見る。

「うん。今日は6万近くか。ありがとうございます。」  
少年は満足げにホクホクという音が似合う顔をしていた。しかし一変。何かに気づいたようで真面目な顔になる。……誰かに見られている。しかも凶器を持って。少年が感じた数秒後、背後から黒い影と共に何者かが現れた。それが少年に近づいた瞬間、剣が振るわれた。銀色の曲線を描き、一閃。

キーンッ！！  
背後からの攻撃は少年の刀によって防がれる。そのまま鎧迫り合いの状態になる。少年が問う。

「だ、だれだ！」  
「ふん。演技だけ上手いって訳じゃないみたいね。反応もなかなかいいし……」

少年の問いに黒い影……ではなく黒いフードを被った金髪の女性は無視してブツブツ呟く。少年は鎧迫り合いを止めたかったらしく

刀を押し距離をとる。少年は再び問う。

「お前、だれだよ！何で俺を襲うんだよ！！」

「・・・うん。よし、決めた！」

「俺の話を聞け　　！！あと、何を勝手に決めてんだよ！」

少年をあざ笑うかのように女性は笑っている。笑いながら少年に近づく。少年は警戒する。だが予想外な攻撃をさせられた。

「えいつ」

「むぐっ！」

女性は少年の顔を自分の胸に押し当てる。少年は混乱と羞恥心が混じり訳が分からなくなっていた。顔を真っ赤にして暴れる。ちなみに女性はDカップ位だと判定。暴れる少年に女性は咎める。

「ちよ。暴れないでよ。時間が無いからさ。訳は後で話すから。」

「時間って、一体・・・ていうか息が・・・！！？」

少年が苦しくなってきたその時、目の前が光りそして白から黒に変わった。少年は気絶してしまったようだ。少年と女性はその場から光と共に消えてしまった・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1663ba/>

---

私たちのギルドに依頼して！！

2012年1月4日05時47分発行